

令和4年度 学校安全総合支援事業(学校安全体制の構築)の最終報告
学校名(大分県立高田高等学校)

1 学校の情報

(1)学校規模

高田高等学校:学級数 12 生徒数 406 名 職員数 51 名

(2)分掌の位置づけ

防災教育モデル実践委員 11 名

防災教育コーディネーター 1 名

(3)地域環境

豊後高田市は大分県北部の国東半島の北西部に位置し、周防灘に面している。西は宇佐市、東は国東市、南は杵築市と接し、豊かな自然に恵まれ温暖で過ごしやすい瀬戸内式気候に属している。

市内の主要な川は、高田地区には桂川、真玉地区には真玉川、香々地地区には竹田川が走り、それぞれ周防灘に注がれ河口付近に市街地が形成されている。

東部から南部にかけては、ハジカミ山、尻付山、両子山や日本三叡山に数えられる西叡山等の山々が連なり、国東半島のほぼ中央の両子山から、放射状に谷や峰々が延びた地形となっており、その谷間を桂川、真玉川、竹田川が走りっている。

地震や津波、洪水の災害から住民の安全を確保するためには、これらの地形、気候の特性を踏まえ緊急時の連絡体制等、防災体制の整備や防災教育のより一層の充実が求められる。

2 取組のポイント

- ①生徒の防災意識を向上させるため、高校生防災リーダーに対して講義を行い、防災について学ぶ。
- ②さらなる意識向上に向けて、防災について学ぶため、高校生防災リーダーの代表が「東北被災地視察研修」へ参加し、その結果の還流報告を行う。
- ③高校生防災リーダーを中心とした有志生徒に対して、「防災食づくり」を行う。
- ④生徒安否確認訓練の実施。
- ⑤3年生の卒業論文にて、高校生防災リーダーによる学習の成果発表を行う。
- ⑥「危機管理マニュアル」の見直し。市の防災対策本部を連携し、高田高校避難所開設マニュアル、ハザードマップの作成を行う。

3 具体的な取組

実施時期	実施事項・内容
5月上旬	高校生防災リーダー選出

5月20日	<p>第1回校内研修:防災リーダーの役割と活動について(講義)</p> <p>本校防災教育コーディネーターにより実施。</p> <p>参加者:生徒12名 教員2名</p>
6月11日	<p>第2回校内研修:地震と津波・火山災害について(講義)</p> <p>本校防災教育コーディネーターにより実施。</p> <p>参加者:生徒12名 教員2名</p>
6月25日	<p>第3回校内研修:気象災害(水害と土砂災害)について(講義)</p> <p>本校防災教育コーディネーターにより実施。</p> <p>参加者:生徒12名 教員2名</p>
6月30日	<p>避難訓練</p> <p>・豊後高田市消防本部と協力し、地震・火事による通報・避難訓練を実施。</p>
7月9日	<p>第4回校内研修:地形と災害リスクについて(講義)</p> <p>本校防災教育コーディネーターにより実施。</p> <p>参加者:生徒12名 教員2名</p>
7月22日	<p>東北被災地視察の事前研修</p> <p>・津波に限らず、自分たちの学校やその周辺の地形を踏まえた災害リスクや、大規模な災害に備えるために事前にできることを考察した。</p> <p>・三重総合高校・大分商業高校・高田高校の3校同時にオンライン(Zoom)で実施</p>
7月29日	<p>第1回防災教育実践委員会</p> <p>・事業概要の説明</p> <p>・防災教育計画の説明</p> <p>・実践に係る意見交換</p>
8月8日～ 8月10日	<p>「東北被災地視察研修」</p> <p>参加者:生徒2名 教諭1名</p> <p><1日目></p> <p>研修場所:旧石巻市立大川小学校</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div> <p><2日目></p> <p>研修場所:気仙沼市立東日本大震災遺構伝承館・気仙沼向洋高校</p>

気仙沼市立階上中学校 釜石市「うすのまい・トモス周辺」



<3日目>

研修場所:震災遺構・旧仙台市立荒浜小学校



8月19日 防災おおいた座談会(BOZ)に参加

参加者:生徒2名 教諭1名

・大分大学学生交流館にて学生 CERD の方々と、若い人たちの防災意識を高めるための意見交流会に参加した。



9月15日 文化祭で東北被災地視察研修還流報告



第2回防災教育実践委員会

・高校生防災リーダーの発表について
・「避難所開設・運営マニュアル」について

<p>10月14日</p>	<p>災害リスクを調査する方法(演習) 学校安全・安心支援課 伊藤指導主事による地理院地図やハザードマップを活用した防災リスクを調べる方法を学ぶ。参加者:生徒13名 教員2名</p> 
<p>11月21日</p>	<p>第1回生徒安否確認訓練 全校生徒を対象に、学習用端末(iPad)を活用し、Microsoft Teams で生徒の安否確認訓練の実施。</p>
<p>12月8日</p>	<p>活動実践「防災食づくり」 ・高校生防災リーダーを中心とした有志生徒に対して実施。 ・TOSテレビ「O!TA めじろオシ」で報道</p> 
<p>1月23日</p>	<p>第2回生徒安否確認訓練 全校生徒を対象に、学習用端末(iPad)を活用し、Microsoft Teams で生徒の安否確認訓練の実施。</p>
<p>1月30日</p>	<p>卒業論文にて防災学習の研究発表</p>  <p>第3回防災教育実践委員会 ・高校生防災リーダーの取組について ・3年生卒業論文発表について ・安否確認訓練について ・危機管理マニュアルの更新について 避難所開設のマニュアル・ハザードマップ</p>

4 取組における成果と課題

(1) 成果

この1年様々な学びを通して、生徒の防災の意識は以前より確実に高まっていると感じた。特に被災地視察研修に参加した高校生防災リーダーの委員長、副委員長は現地の状況を見聞きしたことで、自分事として身近で災害が起きたときに備えて、今できることは何かを考えるようになった。また、この災害を風化させないために、伝承することの大切さも現地の語り部の方から学び、文化祭で還流報告を兼ねての発表もした。「天災は、忘れたころにやってくる」と諺にあるように、災害が少ない地域に住んでいる私たちが、災害を意識し、高校生の今だからできることを考えていこうという雰囲気は本校でもできつつあり、防災への取組のスタート地点に立てたように思う。

(2) 課題

災害は起こる前が大切であるので、災害に関する知識を全校生徒に広める必要がある。しかし、高校生防災リーダーの活動が、本校生徒全体にはまだ広がっていないので、次年度以降の目標として、全校生徒の活動として実践できるようにしていきたい。その中でまず、身近なところである避難訓練で生徒一人ひとりが、避難場所、避難経路、その時に必要な知識や情報を理解して自ら主体的に行動できるように実践活動を展開していきたい。また、この地域のハザードマップを完成させ、さらに自分の住んでいる地域のハザードマップも各自が自発的に作成できるようにサポートしていきたい。そのために、関連科目(地歴科など)とも連携しながら完成できるように努めたい。

また、「総合的な探究の時間」等を利用して、実際に作成したマップを見ながら、フィールドワーク等を実施し、目視で発見した危険箇所をマップに反映させ、注意喚起できるようなハザードマップの改良も検討していきたい。

5 今後の取組の見通し

本年度実施できなかった、「衣・住」の分野についての、実践活動を展開したいと考えている。衣生活では、防災ずきんの製作、住生活では、室内の家具の配置や転倒防止グッズの活用方法などを進めていきたい。

さらには、災害が起こったときには、公助の前に、共助のサポートが欠かせないことを被災地視察研修で学んだ。コロナ禍で、今後ますます人との関係の希薄さが懸念される社会の中では、近隣との連携づくりや地域の中でのサポートが必須になると考える。そのため市が作成している災害時に必要な、避難所運営マニュアル等を参考にして地域住民と連携した防災訓練等も今後視野に入れたい。また、高田高校は市の避難所に指定されているので、豊後高田市災害対策本部と連携し、有事の際に、私たち教職員、高校生にできることを今後も学んでいきたい。